

最近の自民政権は、この日本国の将来をどのような国にしようとしているのか。私のような、かつての戦前を生きてきて、日本が軍備大国になってゆき、次第にミリタリズム（軍国主義）の方向に突き進み、多くの識者が気づいた時には、もはや歯どめのきかぬまでの暴流となり、ついには、まったく無謀なアジア・太平洋戦争をはじめたことを、つづさに経験したものとっては、今日の政治状況をめぐって、いろいろと心配に思うことがあります。すなわち、先般の「秘密保護法」の制定から、沖縄の辺野古の海岸を埋め立てて米軍基地を建設すること、さらにはまた、いままでは『憲法』の制約があつて、不可能であるといつてき

た、集団自衛権についても、強引に解釈を変更して可能であるといひ、アメリカ軍と共同で、他国とも戦争のできる軍隊を設立することを画策しております。『憲法』において、永久に戦争は放棄すると誓つた日本の国は、どうなったのでしょうか。私自身、満一八歳、大学一年生の時に兵役にとられて軍隊に入り、アメリカ空軍との銃撃戦を経験し、九死に一生をえた私にとっては、戦争は絶対にしてはならないと思ひます。戦争というものは、絶対に死ぬことのない政治家が計画してはじめ、政治には無縁の若ものの生命が、あらた奪われていくのです。おろかな

話です。仏教では、他人の生命を奪うことをきびしく禁じています。いま私たちが真宗念仏者が奉じている『無量寿経』には「兵戈無用」（武器や軍隊をもつてはならない）と教えられ、また『観無量寿経』に「慈心不殺」（やさしい心をもつべきで、他人を殺してはならない）と説かれております。私たち真宗念仏者は、戦争に賛成してはなりません。こぞつて反対いたします。しかしながら、西本願寺

た。そして独自の運動を展開してまいりましたところ、西本願寺当局より呼びだされて、本願寺の名称の使用を禁ずるといわれました。それで真宗が奉じている経典には、戦争してはならぬと説かれていたのではないかと反論しましたが、経典に何んと説かれていようとも、本願寺には、『憲法』を改訂して、戦争のできる日本国にすべきだという考えのものが沢山いるから、絶対に不可だということでした。これが西本願寺当局の実態です。自己の奉じる経典の教訓も棚上げし、現実の状況に妥協して、まことの教団といふのか。この西本願寺教団とは、教法も信心もない、たんなる世俗の集団でしかありません。まことにおろかなことでありませぬ。

なお、私たちは「念仏者九条の会」と改名し、現在約一六〇〇名の会員とともに毎年全国集会を開催している活動しております。心ある念仏者の参加を期待します。そしてこの美しく平和な日本国を、子々孫々に至るまで、みんなで護り伝えていきます。

日本はどこにいくのか  
信楽峻磨

安楽寺寺報  
**聞光**  
第70号  
涅槃会号  
2014/2/15  
発行所  
〒737-0054  
呉市上山田町2-28  
安楽寺  
TEL0823-21-7561



念仏者九条の会ポスター

お釈迦さま成道絵図

今年も年長さん達がやってくれました。昨年の地獄極楽絵図に続き、今年は12月8日の成道会をお祝いして、お釈迦さま成道絵図を書いてくれました。1月18日の作品展に飾ったときの写真ですが、高さ1.5m幅4mの大作となりました。前には、それぞれが作った合掌童子。とてもすばらしい作品になりました。子ども達が物づくり日本の将来を背負うような想像力と創造力を持ち、そしてこのような仏さまの事を思えるような子ども達が大きくなると、必ずこの社会は良くなっていくと思います。勝ち組にならぬ、自分の思う通りにならぬ、欲望を一筋に追い求めるだけの人間だらけにならぬ、必ず地獄が現れます。「言うは易し」ではありますが、将来この子たちの心に、少しでもこの大作が残ってくれればと思います。



安楽寺法要案内	
三月	彼岸会 日時 3月15日(土) 朝席・昼席 講師 安登 浄念寺 安達高明師 講題 ご本願のころ
四月	花まつり 日時 4月13日(日) 朝席・昼席 講師 能美 勝善寺 法林英俊師 講題 凡夫とはどういうことでしょうか
五月	降誕会 日時 5月11日(日) 朝席・昼席 講師 能美 光源寺 海谷真之師 講題 仏様のお話を聞くよこびとは?
六月	永代経 日時 6月14日(土)・15日(日) 両日とも朝席・昼席 講師 三重 正覚寺 内田正祥師 講題 願以此功德「この願の功德を以て」 ~どのような功德なのでしょう~

安楽寺マンガ通信  
その23 信楽めぐみ作

この日は!!  
今回は一月十三日の行われた成人式で思い出したように私の成人式で感じたようにお話したいと思ひます。

成人式で人生初の振り袖を着ました。今まで成人式がドレスで取り上げられるのを見ていて、まさかの成人式で思い出したように二十年前の思い出が蘇りました。

今回着物を着るという日本の文化について、洋服では感じられなかった感覚を感じました。

「この着物を着るの自然の背筋が伸びるのですね。背筋が伸びると気持ちよくなります。感じがしました。」

やはり昔の人は、日本人にあった服を着て、その上姿勢を整え、心を整えていたんだと感じました。

私たちの普段の生活に少し目を向け、探してみよう。思わぬ発見があるかも知れません。

私たちの日々の暮らしの中、日本の素晴らしい文化が、このようにあります。

昨年秋に「そして父になる」という映画が公開されました。呉の映画館でも一月の初めまで上映していましたが見られたでしょうか。私はこの映画を見て、色んな事を考えさせられました。色んな問題提起があり、カンヌ国際映画祭でも受賞しましたので、世界が認めるいい映画なのだと思います。

この映画は、病院での子どもの取り違いが元で、それに関わる人々の色んな心の動きや葛藤、そして人としての成長を描いた映画です。親子と言うことや家族と言うことを考えさせられます。親は子によって育てられるんだという事も思いました。

ある日突然、エリートサラリーマンの家族に、病院から連絡が入り、六年前病院で子どもが入れ替わっており、今育てている子どもは、他人の子どもだと告げられるわけです。夫婦は葛藤の中、入れ替わっていた家族とも交流を持ちながら、子どもを交換するという話しに進んでいく

わけです。

しかし六年間全く違った生活環境です。そしてきた子どもを、いきなり入れ替えても、うまくいくはずがありません。大人は血縁にこだわらず、少しずつ慣らしていこうとするわけですが、六歳の子ども達にとっては、そんなことは関係ありません。またこの六年という時間もネックです。子どもにとっては育ててくれた父と母が、紛れもない父と母であり、よそのおじさんとおばさんがあなたの本当のお父さんとお母さんだよと言われても、はいそうですかと

いうわけにはいかないのです。子ども達も大人の言うことを聞きつつも悩むんです。その姿のいじらしさに皆が涙していました。

こうした話しは、現実であり、昨年も産院で取り違えられて、貧しい家庭の子どもになり、十分な教育が受けられなかったという事を訴えた事件がありましたし、それまでも色々なあつたようです。ベビーブームの



時が多かったと言います。これからDNA鑑定が一般的になってくると、痛くもない腹を探られるような場面も増えてくるのではないかと思います。昨年、ある男性芸能人が、自分の子かどうかをDNA鑑定して、自分の子ではなかったという事を公表した事もありましたが、夏目漱石が「人間の不安は科学の発展から来る」といつているように、

科学の発展によって便利になっても悩みが増えているようにも見えます。

さてそこで、私たちが当事者だったらどうするでしょうか。もしも自分の子どもが、本当の子でないとされたら。あるいは、逆に自分が親の本当の子どもではないと言われたら。血のつながりが大切なのか、それとも親子の絆が大切なのか。大切な問題です。この映画の中でも、血縁をとるのか、それとも六年間の生活をとるのか、迫られるわけです。私たち親子が血で繋がっ

ているのか、それとも絆で繋がっているのか、一度考えてみるのもいいのではないかと思います。

他にも色々と考えさせられる場面がありました。最初エリートサラリーマン(主演の福山雅治)の息子として育てられた慶多が、小学校のお受験をするシーンがあります。その時、お父さんと、お母さんと慶多の三人で面接を受け、試験官が「この夏の思い出は？」と問うと慶多は「キャンプに行きました」と答えます。「キャンプでは何をしましたか」と問われると「お父さんとたこあげをしました」と慶多がハキハキと答えるんです。面接は大成に終わり、外へ出るんですが、お父さんが慶多に「キャンプなんて行ってないよな」と言うんです。すると慶多は「学習塾の先生がこう答えなさいっていったんだ」と答えるんです。お父さんは慶多をエリートにしたいと教育します。そのエリートになる為には、こんな小さいときから、嘘言って、上手にその場を凌いで生きていかなくちやならないのかと、少し悲しくなったことです。又こうした教育を

受けたものが、エリートとして、国を動かし国を治めていくわけです。これで本当に大丈夫なんでしょうか。いつも気になる言葉に「正直者が馬鹿を見る」という言葉があります。私たちは、「正直者が馬鹿を見る、なんて事はないのよ。真面目に生きていけばいつかいいことがあるから」と耳にすることがあります。慰めの言葉なのかも知れませんが、本当にそう思っているのか、

本音はひよっとすると「正直者は馬鹿を見る、のよ。どこかでごまかして、上手にうそついて、甘い汁を吸ったものの勝ちよ。そうしなければこの世は渡っていけないよ」と思っているところはないでしょうか。



今この世は、どうやって幸せになるかと考えた時、ウソついて幸せになろうとしている人が多すぎます。詐欺の被害総額が過去最高四八六億円。一流ホテルもデパートもウソ。

作曲もウソでした。政治や原発はどうですか、何もかもウソを中心にして世が動いているように思います。

ところが仏教は自業自得といいますが、その中身は「善因楽果、悪因苦果」と示し、よいことすれば幸せになれるよ。悪いことすれば苦しみますよ、というのです。つまり正直者は幸せになり、ウソをつけば不幸になると教えています。世間の論理と仏教の論理は真逆さまで。今の社会が幸せに向かわないのは、ここに原因があるのではないかと思うのです。

人生はウソをつかずに生きられないかも知れません。しかし無自覚にウソをつき、それによって幸せを求め続ける生き方よりも、自らのウソに気付き、そのウソを恥じながら、少しでも正直に生きる者が、仏法に近く、幸せに近いと思うのです。

聖徳太子は一三〇〇年昔に、「世間虚仮、唯仏是真」と言われ、この世はウソで、仏様こそまことだとお示し下さいました。心して味わいたいと思います。

### 仏事のいろは

#### 焼香の作法

お焼香の作法は、各宗派によって少しずつ異なっています。おおむね、次の二点がポイントになっています。一つはつまんだお香をおしただくかどうかと言うこと。もう一つは、お香をくべる回数です。三回のところもありますし、二回のところも、一回のところもありませんが浄土真宗本願寺派では「お香はおしただくかない」で

「回数是一回」です。

もう少し詳しく作法を述べますと、

- ① 尊前の(ご本尊の前) 一歩手前で軽く頭を下げる。
  - ② 一歩前に進み、香盒のふたを取って、そのふちに掛け、お香を一回つまんで、そのまま香炉に入れる。この時、お香は額にいただかない。
  - ③ 合掌し、お念仏を称え礼拝する。
  - ④ 礼拝が終われば、一歩後退して、一礼をして、自席に戻る。
- 以上が基本です。

#### <焼香の作法>

